「未来の担い手実習プログラム」を実施しました。
～ 学生・若手職員が点検・補修・補強の現場を体験 ～

大阪国道事務所・浪速国道事務所
令和7年9月9日（火）9:30～17:30

大阪国道事務所では、9月9日「未来の担い手実習プログラム」を開催しました。京都大学、立命館大学、大阪工業大学の学生インターン3名と、大阪国道・浪速国道両事務所の事務官を含む若手職員7名の計10名が参加し、府内6カ所の現場を巡りました。本プログラムでは、堺高架橋補強工事（酒井工業）、横断歩道橋点検（近代設計）、伝法大橋・中島出来島橋補修補強工事（ショーボンド建設）、五日市緑第1橋ほか補修補強工事（大勝建設）を実習。AI駆動型3Dスキャナによる施工支援技術やコンクリート打音点検、塗装塗り替え作業など、点検・補修・補強に関する最新技術を体験しました。

●インターン、●若手

●3Dスキャナや鉄筋レーダー、超音波パルスなど“見えないものを検査する技術”に感心。AIやデジタル技術を活用した設計・施工支援が将来の研究や仕事に役立つと感じた。
●吊り足場やアンカー設置、超音波による非破壊検査などを体験し、将来の発注や監督業務に活かせると認識。

●「小さな工夫（ボルトの緩み確認の合いマークなど）が安全を支えていることに驚いた」
「維持管理は渋滞対策以上に命や安全を守る仕事だと理解できた」
●アンカーボルトの設置や塗装補修、超音波検査など、発注者としての業務に直結する知識を習得。DXや新技術の導入は重要だが、最終的には「人がどう判断するか」が大切であると実感。

●「見えない部分を検査する技術（鉄筋探査や超音波測定）」や「塗装補修の工程管理」などを研究や将来の設計・発注業務に役立てたいとの感想。
●吊り足場を実際に体験し、占用許可の判断に役立つ」。莫大な費用が補修に必要だと知り、発注業務の責任を実感。

●点検ハンマーによる音の違いを聞き分けた体験、歩道橋の穴を見ても構造上安全だと知った経験などから「土木の奥深さ」を学んだ。「壊れている＝危険」とは限らず、構造を理解することの大切さを実感。
●点検ハンマーでの健全度判定を実際に聞き、点検の方法を理解できた。DXや新技術の導入は重要だが、最終的には「人がどう判断するか」が大切であると実感。

●「cool down car」や材料冷蔵庫など、暑さ対策の工夫に驚き、作業効率や安全性の重要性を実感。
●熱中症対策（冷房車・首掛けファン等）や合いマークによるボルト管理など、小さな工夫の重要性を再認識。

※　この取り組みは 日刊建設工業新聞（9月18日付）で大きく取り上げられました。

国土交通省
近畿地方整備局

【お問合せ先】
国土交通省 近畿地方整備局 大阪国道事務所
〒536-0004　大阪市城東区今福西2丁目12番35号
代表電話番号　06-6932-1421（受付時間9:15～18:00）
ホームページ　https://www.kkr.mlit.go.jp/osaka/

ホームページ　X